

教材名「工業の中心、機械工業」

目標

- ・ 様々な種類の工業に関心を持ち、地図や資料を活用しながら意欲的に調べ、我が国の工業の特色について考えようとすることができる。(社会事象への関心・意欲・態度)
- ・ 日本の工業の特色や工業を支える働きについて考えると共に、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えることができる。(社会的な思考・判断)
- ・ 地図・グラフやインターネットの情報を活用したり、工場見学をしたりして具体的に調べ、分かったことをまとめることができる。(観察・資料活用の技能・表現)
- ・ 日本の工業は、高い技術力を持つ機械工業を中心に発展していることや、工業生産を支える貿易や運輸の動きについて理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

コンピュータを活用する利点

課題を追究し解決するための資料が身近にないとき、インターネットで検索して、すぐに文字や動画・音声による情報(資料)を視聴することが出来る。

授業の流れ

グラフから読み取ったことを想起し、本時の学習課題をつかむ。

機械工業の生産額が、どうして多いのかを考える。

ワークシートに書いたことを発表し、まとめていく。

ICT活用場面

機械工業の生産額がどうして多いのかを考えさせる活動で、パソコンや実物投影機を活用した。インターネットの4つの情報(ヤフー:グローリー株式会社の商品・情報、ヤフー:子ども向け工業、リンク集「子どもの国」、ヤフー:学習サーチ、さまざまな工業、ヤフーキッズ:液晶、液晶ディスプレイをみてみよう)を紹介し、その情報を読み取りながら課題を追究させていった。また、福祉自動車についてのパンフレットは、実物投影機を用いてスクリーンに映し出し、生産台数の増加が一目瞭然に分かるように設定した。

追究課題に対する答えは1つではなく多岐にわたっているため、与える情報も、消費者のニーズ・より便利な生活へ(機械化)・より豊かな生活へ(商品の高度化)・世界における日本の技術のすばらしさなど、いろいろな方面からとらえられるように情報を設定した。

授業は、パソコンルームを使用し、自分の考えや思いで学習を進めていけるようにした。

成果と課題

デスクトップに開きたいページを貼り付けておかなかったので、4つの情報を引き出すまでにとっても時間がかかった。

どの児童も興味深く追究活動を行っており、支援を要する児童も、指示された一つの情報を収集し、まとめるのに集中して取り組めた。

インターネットの情報は、文字だけでなく動画や音声もあるため、より児童の興味・関心を高め、自ら学ぶ意欲も向上し、学習効果が上がる。

ICT活用環境等

| | |
|--------|----------------------------|
| 使用周辺機器 | ノートパソコン35台、プロジェクタ 実物投影機 |
| 使用ソフト名 | Internet Explorer |
| 使用教室 | コンピュータ教室 |